

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	ぴーすの児童デイあぼろ			
○保護者評価実施期間	令和8年 6月15日 ～ 令和8年 7月10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和8年 6月15日 ～ 令和8年 6月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業向け自己評価表作成日	令和8年 8月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の特性やスキルに合わせたカード支援を行っています。	・児童の特性やスキルに合わせ、一人ひとりのスケジュールを活動時に毎回用意している。 ・発語の有無に関わらずコミュニケーションカードを活用している。言葉、ジェスチャー、カードなど様々なコミュニケーション手段で、児童の要求や拒否、伝えようとする力を伸ばす支援を行っています。個別のコミュニケーションツール（P E C S使用）など、児童・保護者の要望にもできるだけ応じるようにしています。 ・事業所でうまくいったコミュニケーションツールは必要であれば、家族に提供します。	・児童のコミュニケーション手段を大切に、言葉でコミュニケーションができる児童に対しては、言葉でのコミュニケーションが伸びるよう支援します。不明瞭である場合は、カードも使い、「確実に思いが伝わった」の経験と自信に繋げていきます。 ・サービス担当者会議に積極的に参加し、学校や他事業所との連携を行います。 特にサービス担当者会議が開催されていない子どもについては、こちらから保護者や相談支援事業所に対して、担当者会議の開催を提案していきます。
2	活動内容は自由時間以外に、個々の特性や好みに合わせた個別の活動を行っています。	・自由時間を過ごすことが得意ではない児童も多いため、個々の特性、好み、スキルを考慮した活動を取り入れています。 ・「1人でできること」「少し手伝ってもらうとできること」を個々の課題として用意。家の中で1人で集中できることを見つけ過ぎし方の幅を広げる支援を行っています。 ・「食器洗い」や「掃除機」など家事練習を積み、自宅で家族の役に立つスキルも高めます。 ・長期休暇には「友達と楽しむ」をテーマに、外に出て身体を動かす・クッキング・ゲーム大会など友人と一緒に活動を楽しむ時間を過ごす中友人と協力する、助け合うことを経験できるように支援を行っています。	・どの活動も児童の参加意欲が出るよう、個々の好みや得意なことを中心に取り組んでいます。 ・高学年～高校生の児童は、取り組む内容を自分で選択できるようにしています。自己選択した活動に最後まで取り組むことで「達成感」に繋げています。 ・一人ひとりの好みや意欲を大切にしながら準備を行い、具体的にどのようなことをするのか分かるよう、特性や能力に合わせて、カード等の視覚支援グッズ（手順書や外出先の道順など）を用意するなどの工夫を行っています。
3	様々な場面で「自分で決める」場面を取り入れ、自己選択の練習を行っています。	・おやつ時間は、十個以上の選択肢の中から「今日は何を食べるのか」を選択できるようにしています。選択肢は毎年児童の好みによって変更し、幅を広げるよう工夫を行っています。 ・児童によっては、「おやつを食べる」「買い物に行く」などの選択肢の中から、自分で活動を決める経験も取り入れています。 ・毎回行う「お手伝い」の活動も「自分の希望」を選択しています。希望が被った時は譲り合う経験ができるよう支援を行っています。	・一人ひとりの好みや意欲が高まる内容を、必ず選択肢の中に用意するよう工夫しています。 ・選択肢は内容が自分でわかるよう視覚支援を活用した一覧表を用意しています。自分の顔写真を貼り「やりたい」「これがいい」の意思表示を支援しています。 ・選択肢が違った時には、「悲しい」「悔しい」の気持ちに寄り添い、様々な感情を経験できるように支援しています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	クールダウンする部屋の確保が難しい。	・建物上の問題で部屋の数に限られているため。 ・パーティーなどで仕切りを行い、個別の空間は確保していますが、不安定な児童が複数出た時は、別々にクールダウンする場所の確保が難しい状況となります。 ・クールダウン用のテントを用意しているが、テントを使用した場合、部屋の空間が狭くなります。	・不安定な児童がいる場合は、落ち着いている児童と外出するなど、お互いがリラックスできる環境の調整を行います。 ・移転に伴い、環境面での工夫を行います。児童一人ひとりの特性に合わせて、部屋の構造化についても定期的に見直ししていく必要があります。
2	保護者とコミュニケーションを取る機会が少ない。	平日利用の児童は送迎車で帰宅するため、添乗員が保護者に「今日の様子」を説明しています。しかし、スタッフによっては、挨拶と事務的な説明のみとなっている場合があります。連絡シートには担当スタッフが児童の様子を記入していますが、保護者と直接顔を合わせて話す機会が少ないため、児童の様子や支援内容などの情報が十分に伝わりにくい状況があります。	・保護者の希望を確認し、参観や見学ができる機会を設けます。 ・保護者と直接話をする機会が少ないため、子どもの成長を保護者とともに喜び、共有する機会が十分に持てていないことを残念に感じています。今後は、法人主催のセミナーなど、保護者とスタッフが関係を築きながら意見交換を行える機会を設けるなど、交流につながる企画を検討していきます。
3			